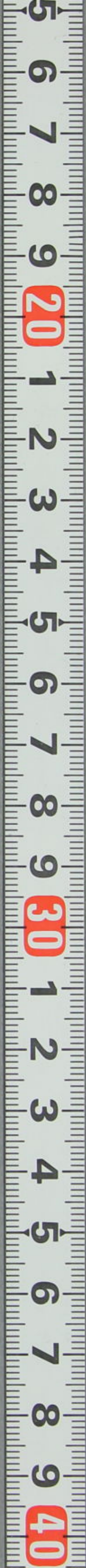




~ 5  
5716



門  
號 5716  
卷



河上庵の如くつらつら

まきばるる所もたゞる人多きなり

藤柳舎の如く生涯の風調を

守りぬる所もたゞる人多きなり

云々

初のあまをよみしむるに  
中の中をよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに

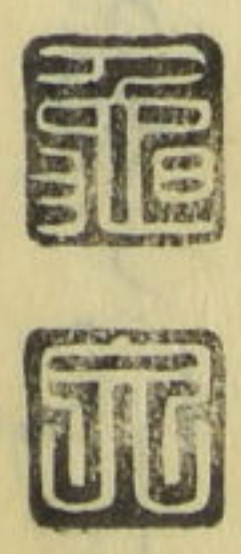
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに  
おのれをよみしむるに

報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制  
報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制  
報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制

統制  
報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制  
報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制  
報恩謝禮  
統制  
法道  
雜  
統制

葉はみちる波はたかきつらなる  
けしこころにみちるはなを  
りこころにみちるはなを  
とみちるはなを

曲名 鹿苑文



懐 舊

去来庵連

雲のりあきらけあり庭ろ梅 挂阿  
朝露にほきく侍りやつら一掃 子丈  
朝ちうふ梅を何くも 忌日う那 万花  
おのつ夢やむうを今の梅一本 柳牛  
一りくはれゆうをよのち乃葉 有時  
五うきとほく掃もみりのりこれ 玄蘭

笑と夢もみゆふ十もや 残る葉  
平風ろ松色あつた 忘日すし雨  
夜何〜やむう〜ととの掃ろ喜  
多か白ろ鈴籠 暮〜 花法夢  
うた人志路もほろ〜や 十も葉  
霧の深ふ道や 暖縁ゆたき如生  
寒むう〜 強水ももゆ〜 暖縁の秋  
清あきり〜 葉も〜 つむく十日水

眉亮  
雲舟  
九皋  
出牛  
春示  
遊頌  
祇寛  
菊雅

尾ろとろり ねる 吉野庵ふすしの 御湯  
あ〜〜に 葉つゆらけ 杜は古縁 折金  
の八十とさか 忘ふあ〜り なるにその 忘る掃り  
より〜 夢成むと〜 夢〜 夢〜 夢〜  
おの〜 夢〜 夢〜 夢〜

古友

秋の句

多ふあ〜り 村はふ夢ゆ〜 葉も字す  
未も又とろ〜 見〜り 葉ろ 烟  
葉は 遠志 忘〜り みるは 夜もす

李井  
菊芳  
村鳥

切道一子行ふ野分う水 貴人

振向く我宿見くり 杖のくさ 兀子

露消さず又さくさく流旅路か 一帆

下枝より烏帽子或掛川もさう特 梅汕

かもしりにハ津乃形帽屋こみりり 條字

ふそ路や 廿火を焚く小舟と 奥 成美

木枯りくハ草乃色さくく紅葉うさ 季流

とくもさる紫のさくちき梅りさ 英藏

水けや 舟にあさるくの氷乃色 吳蔭

梅つとや 山よりさきは沖のかい 遠<sup>只</sup>百童

鈴のほや 三あきくく交るゆり 時来

いこつて 狐を怖は 鳴子うれ 井<sup>年</sup>玄兔

刃親のゆきし 露さくく 抽味倍小 實我

小川 裾ぬくく たりるの糸 蘭里

撥を織るさう後をりや

丹山

茶火入る女をぬくまや

志計

見ゆるや石よきの巻を晴し

夷道

嘯るや子種は末を葉す

了因

ゆらけやぬるりのこは種ほく

盛巴

あしきく露引るる月夜う

和風

とくもあしきく曇りそ

呂英

此うらむ香見をうりそ

金馬

日影をう垣の瓢る

遠列  
魯通

竹見も枯るとかきり

常呼

鳥うら麻る物をゆく

梅二

やまもや盆引や

藍舟

子種候中う月をう

觀之

やうらもや喜まの

沙明

鴨きりや路る

暮三

えくもるうと土俵

木雞



まゝ原松の木引く海路なり

南次 素師

見く車ん月りも次へのる所なり

經道

兼然心をこゝろ無くするある一か条

長中

有知の如く確くもくもつ可程

馬飛

法もくもくもくもくもくもくもくもく

拙康

表もくもくもくもくもくもくもくもく

坐落

そのいもくもくもくもくもくもくもくもく

浮木

之解もくもくもくもくもくもくもくもく

其漣

風折れ松根もくもくもくもくもくもく

備後 古声

花もくもくもくもくもくもくもくもく

筑前 蝶醉

秋もくもくもくもくもくもくもくもく

長門 枕山

誰もくもくもくもくもくもくもくもく

播磨 青蘿

弱りもくもくもくもくもくもくもくもく

美作 辻雅

空もくもくもくもくもくもくもくもく

京 維駒

里もくもくもくもくもくもくもくもく

枕流

里もくもくもくもくもくもくもくもく

瓦全

介欽秋林掩々いさのまふ末小

道江 醫風

山鳥里一吹るく舟かう水

京旅人 青菊

龍うし秋ふもささ秋う水

可大

一日さあうり成りり菊の娘

古橋

雁くに物さうのまも秋長う水

万部

犬夢もまもとら仲もさあう水

李院

さあうきまこちう隣もさあう水

荅封

ま川秋や先冷一あうの川

可列 一我

ま川秋や捨る塔をとちあう水

吾伯

ま川秋や唐るたも夢のや水

甲府 福後

策の名も古まを志まふ十も水

石牙

ま川秋や八十年一法若の法水

一路

十三里を一夜やあう水

狸登

古御旗旅にさあう水

竹瓦

ま川秋や路まうり水

梁江

後拾遺集をよみくはしりし年  
そととをよみくはしりし年

けしきとくはけしきとくはけしきとくは

龍口

あつたつたつたつたつたつたつたつた

祇園

廣くつたつたつたつたつたつたつたつた

温見

篠をたたくつたつたつたつたつたつたつた

連馬

先生と長谷の西と書に寓居し終  
とよ柳と七の法ありてを文と作り  
まゝつたつたつたつたつたつたつたつた  
ちりつたつたつたつたつたつたつたつた

まゝつたつたつたつたつたつたつたつた

京 重厚

あつたつたつたつたつたつたつたつた

重文

つたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつた

京 蝶夢

つたつたつたつたつたつたつたつた

京 蓼太

あつたつたつたつたつたつたつたつた

京 嘯山

あつたつたつたつたつたつたつたつた

義仲寺 沂風

あつたつたつたつたつたつたつたつた

某乞

まゝもすゝの塔のつゝの舟

霜後

道にに露のふりよる日新

平砒

葉の露のふりよる日新

葉陽

竹の露のふりよる日新

糸  
几董

宝永甲申秋九月十日

去来父弟 爺 守るの

後も法書より贈るる白くま

白くまのふりよる日新

白くまのふりよる日新

壽よ〜九日にもすゝの舟

可因

と〜月乃 去来父弟 守るの

河上庵  
養里

追加

八月のふりよる日新

妹も又中山 紙ゆれいのふりよる日新

糸乃弟  
五雲

跋

吾為榜令のきもえ其芭蕉翁三千法徒也  
と首とあつてきく終もその角嵐者の三子  
もその隠徳も及つてしつとせよるもつや  
又その井深六つ田門評林も法雅乃  
實らるるりつと手つたに拳らまひりさき  
それは世にみゆるなり滅後既乎年  
今月七日未形のきもえ人々といふ

法とむく懐齋の御徳を信を託す  
深川の紫衣皇子つとつとつと

差成野旅人

重厚

天明甲辰秋九月



